

# 市政クラブ 活動報告



高野たけし

無所属34歳・2期目  
逗子市議会議員  
総務常任委員会委員  
中央大学大学院修士課程修了



長島有里

無所属28歳・1期目  
逗子市議会議員  
教育民生常任委員会委員  
立教大学法学部卒

## 地震に強い逗子づくり

～ 県、市に耐震支援策を会派要望～

### 今後30年以内に震度6以上の地震 が起きる？！

三浦半島の武山に活断層が見つかったとの報道が平成14年にあり、三浦半島地域の地震を不安に思う市民も多いことと思います。今後30年以内に、南関東地域でM6.7～7.2の大地震が起こる可能性が70%程度あるという調べもあります(文科省2007年度発表)。

そのため、逗子市でも地震に強いまちづくりを早急に進めなくてはなりません。対策の一つに電線類の地中化があります。平成16年にスタートした電線類地中化50年計画では、いざというときに電柱が倒れて救急車両の往来を妨げないようにするため、県や国の補助を受けながら市道や県道の電線類の地中化を進めています。

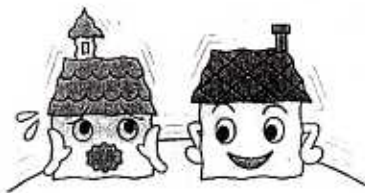
また、まだ記憶に新しい平成7年の阪神・淡路大震災では、亡くなった方の8割以上が、建物の倒壊や家具の転倒による圧死でした。とくに、昭和56年以前に建てられた木造住宅に大きな被害が出たと言われています。

こうした事態を防ぐためには、家屋の耐震診断、耐震工事が必要不可欠です。皆様のお宅の耐震診断の助成に加えて、平均で約250万円程度かかるといわれる耐震工事の補助も県の支援を活用しながら進めていくことが大切です。

私たちは、課題解決のため、先日会派要望として逗子市及び神奈川県に対し、災害対策の支援拡充を求め要望書を提出したところです。

#### 耐震診断の助成

現在、逗子市では建物の構造や傷み具合などを調べる簡易診断の費用31500円の内、2万円の補助金を出しています。



## “借金に頼らない財政運営を”

新市長の舵取りを見ていくために、スタート時点で、前長島市長からどういう状況でバトンタッチされたのか、これまでの経過をおさえておく必要があります。



### 1. 約60億円以上。

これまで、長島前市長が8年間で入札改革・行財政改革により節約した税金総額。

### 2. 約12億9000万円。

就任当初は約269億2000万円あった逗子市の借金。長島前市長在任中に約12億9000万円減らした。

### 3. 約4億9千万円。

市の貯金(財政調整基金)は、長島前市長就任時、約9億7千万円あった。その後、文化教育ゾーン建設などにあてるため、平成14年には約21億9千万円まで積立て、一時は約1億8千万円まで取り崩したものの、最終的には約4億9千万円の残高にした。

長島前市長時代には、文化教育ゾーン建設のため、市の貯金を4億8千万円取り崩しましたが、借金は12億9千万円減らしたので、差し引き8億1千万円プラスにしています。

つまり、約60億円以上かけて、逗子小学校の立替や新図書館、文化ホール建設をしても、入札改革、行財政改革で約60億円以上税金を節約しているため、適切なスクラップ・アンド・ビルドが成立しています。

私たち、市政クラブは、公約を誠実に実現しようとする平井新市長の姿勢を現段階では評価しています。その上で、1. 入札改革・行財政改革、2. 起債総額、3. 財政調整基金の数字をきちんと抑えて市政の舵取りを行うよう予算特別委員会の総括質問で指摘しました。

今年度の予算では、団塊世代の退職手当を充当するため、新たに1億5000万円の退職手当債が計上されました。退職手当債は平成18年度末に補正予算として2億円が計上されており、償還額2千万円を引くと、合計で3億3千万円が来年度末までの起債残高になります。

市政クラブでは、団塊世代の職員の退職金への対処方法として、借金をするより先に、貯金を取り崩すほうが優先ではないかと指摘もしました。新たなサービスを展開することは大切ですが、借金に頼る財政運営は、後世に大きな負担を強いることになりかねません。また、昨年全国1位となった逗子市の全国透明度ランキングの推移や、公共事業の落札比率も、しっかりとチェックしていきます。

# 総合的病院を現実のものに。

**総** 総合的病院の誘致について進捗状況がどうなっているのか、分からない方も多いと思います。

## ベッド数の割り当てとは

病院を誘致するには、まず、ベッド数の割り当て(病院が開設するために必要なベッドの割り当てのこと。神奈川県が権限を持ち、個々の病院に数が割り当てられる)という厳格な規制があります。

現在は、横須賀市に聖ヨゼフ病院を持つテレジア会が候補に内定しています。病院は全国公募しましたが、他に一定のベッド数を持ち、なおかつ逗子市への進出の意思を持つ病院は現在のところありません。

## 一番の焦点は何か

今回の病院進出がまとまるかどうかの一番の焦点は、テレジア会が逗子市に求める経費を是とするかどうかです。

テレジア会側は内部の理事会の理解を得るために、神奈川県に申請した書類には「逗子市からの委託金2億円」を計上しています。何十億円も拠出している他市の病院誘致の現状と比較すると割安ともいえますが、財政状況が厳しい時代に、逗子市にとって2億円は大金です。

## 救急体制の実現のために

テレジア会側は、逗子市側が求める365日24時間の救急体制などを展開するために、1.年間約1億6千万円の委託契約をする、2.10年後には見直す、3.黒字が出たら市に委託金を返上する、という提案をしてきました。

池子の医療保健センターに、逗子市が拠出している年間約7000万円の救急医療費も、テレジア会が365日24時間の救急体制をとれば、将来的には不要になる可能性もあります。

これを考えると、逗子市がテレジア会の経営が軌道に乗るまで、一定の負担をすることはやむを得ないものと捉えています。そのコストを逗子市とテレジア会とでいくらか折り合いをつけるかが鍵を握っています。

私たちは、長年の懸案である総合的病院の誘致を、現実のものとするために、行動をしていきたいと思います。



## 今

今年度廃止された事業の中に、昨年度からスタートしたダイヤモンドタクシー事業があります。

この事業は、引きこもり高齢者を作らないというコンセプトのもと、まずは、小坪、沼間地域を限定に、相乗りタクシーとしてスタートしたものです。登録者数は平成十八年度95名、市民アンケートでも約1400人回答(約半数の方が使ってみたくないと回答しており、大きな期待が寄せられていました)。タクシー事業者の協力が不可欠ですが、タクシーより便利になってしまつとパイを奪われるという懸念もあり、利用するためにはかなり前もって申し込むシステムとしてスタートしました。このため、実際の利用者は少なく、立ち上げ当初は1回の利用あたり行政負担が約18000円というコスト分析になりました。

しかし、これは武蔵野市のMTバスと同じで、軌道に乗せるには、時間も初期投資も必要です。私たち市政クラブでは、利便性を高めるようタクシー事業者と協議するように一般質問で求めていました。それにもかかわらず、財政難を理由に、工夫をすることもなく新市長が廃止を決定したことはとても残念です。

また、団塊の世代を対象にした逗子都民リターン支援事業も廃止になりました。逗子市では、年々上昇する介護医療費を抑えるために、健康づくり、介護予防の政策を展開する必要があるはずですが、

そもそもこの二つの事業は、一年という短期間で即効性が表れる性格のものではありません。廃止に踏み切った平井市長が何をどう代案で展開していくのか厳しく追求していく考えです。

## 《編集後記》

先月行われた統一地方選挙では、四人の仲間の応援が入りました。多くの方々への信任を頂き、全員当選することができました。今後他自治体の仲間と情報共有を図りながら、逗子市の政策展開に活かしていきたいと思えます。(高野たけこ)

昨年の四月につくった名刺がなくなりまして。その代わりに手元にはたくさんの方の名刺が残りました。今年度も新たな出会いを大切に、議員二年目をがんばりたいと思います。(長島由里)



←表面で災害対策について記載しました。備えあれば憂いなし。ご参考にして頂ければと思います。

## 「非常時持ち出し品リスト」

- 貴重品 現金、カード、健康保険証、鍵、携帯電話(充電器)
- 携帯ラジオ 懐中電灯 水 食料品 救急用品
- 生活用品 ラップフィルム、缶きり、ビニール袋、洗面具、トイレトーパー、使い捨てカイロなど)
- 10円玉災害用伝言ダイヤル119に公衆電話からかけるため)